

愛知県障害児者基礎調査報告

1 調査の目的

全ての県民が、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重され、障害の有無によって分け隔てられることなく、多様性を認め合い、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する地域社会の実現に向け、障害のある人の自立及び社会参加の支援等のための施策を総合的かつ計画的に実施するための愛知県障害者計画の次期計画作成の基礎資料とするために実施。

2 調査対象及び回答者数等

(1) 調査対象

県内の障害者 3,550 人に対して調査票を郵送または手渡しし、調査を行った。

(対象の内訳は以下のとおり)

- ①身体障害者：1,650 人
(政令市を除く手帳所持者から抽出。肢体 750 人、内部 600 人、視覚 100 人、聴覚 150 人、音声言語 50 人)
- ②知的障害者：450 人
(政令市を除く手帳所持者から抽出)
- ③精神障害者：650 人
(政令市を除く手帳所持者から抽出)
- ④発達障害者：350 人
(精神医療センター受診者及び政令市を除く発達障害関係団体会員から抽出)
- ⑤難病患者：350 人
(政令市を除く難病法に基づく特定医療費助成制度受給者から抽出)
- ⑥高次脳機能障害者：100 人
(政令市を除く高次脳機能障害支援拠点機関利用者等から抽出)

(2) 調査時期

令和 7 年 1 1 月 1 8 日 (火) から令和 7 年 1 2 月 1 5 日 (月) まで
インターネットによる回答は令和 7 年 1 2 月 2 6 日 (金) まで

(3) 回答者数

1,919 人 (有効回収率 54.1%)
(郵送による回答：1,451 人、インターネットによる回答：468 人)

(回答者の内訳は以下のとおり)

- ①身体障害者：771 人
- ②知的障害者：209 人
- ③重症心身障害者：16 人
- ④精神障害者：284 人
- ⑤発達障害者：234 人
- ⑥難病患者：242 人
- ⑦高次脳機能障害者：74 人
- ⑧その他：89 人

3 調査内容

(1) 基本情報	(9問)
(2) 障害者手帳や支援区分認定などについて	(12問)
(3) 住まい・暮らしについて	(6問)
(4) 障害福祉サービスの利用状況について	(11問)
(5) 生活支援について	(7問)
(6) 教育・育成について	(5問)
(7) 医療について	(7問)
(8) 情報・コミュニケーションについて	(10問)
(9) 生活環境について	(3問)
(10) 収入について	(8問)
(11) 就労について	(9問)
(12) 文化芸術活動・スポーツについて	(7問)
(13) 障害や障害者への理解と権利擁護について	(10問)
(14) 安全・安心について	(5問)
(15) 最後に（優先すべき施策等）	(2問)
計	111問

4 結果のポイント

(1) 障害福祉サービスの利用状況について

- 障害福祉情報の入手方法・場所は、「市町村役場に問い合わせる」が36.2%と最も多い。
- 障害福祉サービス・障害児通所支援等の利用の有無は、「利用している」が30.5%、「利用していない」が58.6%。
- 利用している障害福祉サービスの満足度は、「満足している」が44.4%、「どちらかといえば満足している」が41.2%。

(2) 生活支援について

- 困ったときの相談先は、「親」が35.5%と最も多い。
- 成年後見制度の認知度は、「知っている」が50.0%、「知らない」が45.7%。利用の有無は、「利用している」が3.5%、「利用していない」が95.9%。今後の利用希望は、「わからない」が42.7%と最も多く、次いで「利用しない（又は利用する必要がない）」が36.6%。

(3) 医療について

- 健康診断等の受診状況は前回調査と比較して、歯科健診が増加。

(4) 情報・コミュニケーションについて

- 生活上必要な情報の入手手段は、「SNS」が増加。
- 希望する情報のバリアフリー化に関する施策は、「ITバリアフリー環境（スマホアプリなど）の充実」が8.9%と最も多い。

(5) 生活環境について

- 街（駅や商業施設）のバリアフリー化の満足度は、「十分進んだと思う」が5.6%、「かなり進んだと思う」が18.3%

(6) 収入について

- 本人の年収は、「80万円～150万円未満」が25.7%と最も多い。

(7) 就労について

- 就労の有無は、「仕事をしている」が34.6%、「仕事をしていない」が61.8%。
- 現在の就労期間は、「20年以上」が23.0%と最も多い。

- 仕事の種類は、「会社や役所などに勤めている（正社員）」が33.7%と最も多い。
- 就労・就労定着に必要な配慮の内容は、「障害のことを理解する会社があること」が49.6%と最も多い。

(8) 文化芸術活動・スポーツについて

- 行っている文化芸術活動の内容は、「音楽」が7.9%と最も多い。

(9) 障害や障害者への理解と障害者の権利擁護について

- 差別や嫌な思いを受けた経験の有無は、「ある」が36.1%、「ない」が57.0%。
- 障害者差別解消法の認知度は、「よく知っている」が2.0%、「少しは知っている」が9.7%、「名前は聞いたことがある」が14.2%、「知らない」が66.0%。
- 虐待の経験の有無は「ある」が10.1%。
- ヘルプマークの認知度は「知っている」が53.6%、「知らない」が22.5%。

(10) 安全・安心について

- 災害時（地震や台風）に不安なことは、「避難所（避難場所）で必要な支援・医療が受けられるか心配である」が53.2%と最も多い。
- 必要と感じる災害対策は、「被災しても医療行為を受けられる環境の確保」が49.8%と最も多い。
- 県の障害者施策における優先順位は、「医療費・福祉サービス利用時の負担の軽減に関する施策」が1位、「手当等経済的個人給付の充実」が2位、「障害及び障害のある人に対する一般県民の理解の促進」が3位。